収容所(ラーゲリ)から来た遺書　辺見じゅん ❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖

■本書は、新建・富山支部の西さんからの推薦図書です。
（このまえ長野セミナーへ参加した際、お話ししてくださいました。）
■1957 年に山本幡男さんの妻のもとに「最初に」届いた遺書。シベリアに抑留され、通訳として働いていた山本さん。山本幡男さんは新建の山本厚生さんのお父さんです。その遺書は、本人が帰国できず、そのかわりに山本さんの言葉を暗記してきた方々が、日本へ帰国してからしたためたものでした。最初に届いたのは、戦争が終わって 12 年後のことです。
第 7 通目の遺書が届けられたのは 1987 年でした。
■巻頭に「ソ連領内の抑留日本人・収容所分布図」があります。
日本人収容者数・２万人以上・・・約 6 か所、１万人以上・・・約 17 か所
１万人以下・・・約 41 か所、少数・・・約 7 か所
シベリアに連行された日本人は、民間人も含め 57 万～70 万人だといいます。

❖❖❖

■8/15 終戦？　～1945 年 7 月からの大きな流れ～
7/26 ポツダム宣言が発表。7/28 鈴木貫太郎首相、ポツダム宣言黙殺、戦争まい進の談話を発表。
8/6 広島に原爆投下、8/8 ソ連、対日参戦、8/9 長崎に原爆投下。
8/10 九日から行われた御前会議の末、十日未明にポツダム宣言の受諾を決定。
8/12 日本の降伏条件に対する連合国の回答が届く。
8/14 御前会議、ポツダム宣言の受諾を最終決定。連合国へ通知。天皇、戦争終結詔書を録音。
8/15 玉音放送が流される。鈴木内閣総辞職。8/17 東くに宮なるひこ内閣成立。
8/30 連合国最高司令官マッカーサー、厚木飛行場に到着。
9/2 重光葵外相らミズーリ号上で降伏文書調印、降伏詔書を世界に発表。GHQ が軍需生産全面中止指令。
　天皇終戦の詔は 8/14 で署名がされているので、意味をもつとしたらむしろ 8/14、もっと意味を持つのは 9/2 で外交文書のかたちで正式調印が成された日だからです。アメリカをはじめとする連合国は、日本政府の代表として外相、重光葵と参謀総長、梅津美治郎が戦艦ミズーリ号上で降伏文書に調印した 9/2 を正式な戦争終結の日「対日戦勝記念日（VJ デー）」としています。・・・ 1982 年に 8/15 を「戦没者を追悼し平和を祈念する日」とすることがきめられました。鈴木善行内閣。8/15 は終戦の日でも敗戦の日でもなく戦没者を追悼し平和祈念の日とされたのです。政府広報で広め、かつて占領軍を進駐軍と呼び、敗戦を終戦という言葉にすりかえた国は、ついに終戦という言葉すら使わずに、追悼・平和という耳ざわりのいい言葉を用いるようになったのです。（旧盆で供養の風習に合致）
■解説は、自身がノンフィクション作家でもある、吉岡忍さんは以下のように語ります。
本書は第二次世界大戦の敗戦のあとでシベリア各地の収容所で長い年月を送らねばならなかった日本人捕虜たちの群像を、その一人であった山本幡男さんの生涯を軸にしながら描いている。捕虜生活のディテールの描写は収容所のなかに流れていた、それはおそろしく緩慢な時間の感覚に沿っている。劇的でなく、いつまでもつづく、のろのろとした日々の感覚を、こうして読者も共有することになる。7 通目の遺書を山本さんの死後 33 年目にして遺族に届けた元捕虜もいた。山本さんを軸に登場人物たちの物語は、収容所の内側を舞台にして 12 年にも及ぶものであった。外にはスターリンの暴政、収容所以前には捕虜たちもその一員であった日本帝国主義のアジアへの侵略があった。それら全部をふくみこめばちがった物語になったのではないかという思いは私にはある。・・・私たち一人ひとりがそれぞれの物語を描きそこからどんな力をひきだしていくのかが問題です。　　　自由貸出可（黒野晶大）